

## 高学年分科会

### 【授業づくりについて】

授業のスタイル

事前アンケート 事前読み 問いを決める

導入 アンケートを使う

展開前 問いについての対話

展開後 アンケートに戻り 自分事として考える

結末 自分の考えが変わったことなどノートに書く。意図的指名をする。

※今回は、最後の部分を深めたいので2時間扱いにした。

### 【自評】

1次（金曜日） 教材中心「自分が孝吉だったら、盗むか盗まないか？」

「順庵はどうして許したのか？」

2次 「広い心とは」 考えを書かせてから

子どもたちはじっくり考えていた。

- ・子ども達から「問い」がでた。 話合いが深まっていった。(EX 自分だったら・・・)
- ・自分に対して謙虚になることはもう少しだった。
- ・子どもなりに「広い心」について考えていた。
- ・T2 子ども達から「問い」がでていた。
- ・特支の子ども達には難しかった。

### 【質疑応答】

△ 謙虚を入れるとしたら・・・

△ 児童Nの意見で変わっていった。

具体的な生活場面になった。 子ども達は話しやすくなった。

後半「言える・言えない」で流れてしまい、堂々巡りになったところはずれていた部分だった。

△ 質問の切り替えが上手くいかない。→ 訓練

△ 声の大きさ（女の子）→マイク使用

○ 子ども自身からの問い「やさしい」「心が広い」の違いは？

○ ノート

他人との意見の違い、考えが変わったことなど、たくさん書いている。

あまり話さない（女子）はたくさん書く。

## 【指導助言】

(渥美先生)

- 前時で、「順庵は、なぜ許したのか？」を掘り下げて「広い心とは何だろう」と考えるとよかったのでは。この医者はずごいなーと思っているので、そこをもう少し掘り下げると、謙虚につながったのではないかな。
- 子ども達なりに熱心に対話していた。→子ども同士の問い返しは、今までの成果。
- △ 語彙力を増やす、頭の中で考えていても言葉に出来ないとどうしようもない。  
(道徳だけではなく、他の教科でも)
- 書く活動が定着している
- p 4 c の活動・・・教材から離れて身近なこととして考えられるようになったのも成果
- △ 質問に対して、正対する力をつける。論点がずれていく。
- △ 広い心・・・自分に対して謙虚  
相手の立場や気持ちを受け入れる                      この2本柱  
教師 コーディネイト (つなげられるように) 切り返し  
前時のうちに「広い心をもって                      なぜ大切なのか」など、ぼんやりと引き出すとよい。
- △ 児童 N の質問に対して  
「もし、自分がやった時の事を考えると注意できない。」という意見がでた。ここに謙虚さがあった  
ちょっとした言葉を拾って、引き出していけたのではないかな。(言葉を引き出したい)
- △ T 2, T3 の役割 → 役割分担をしたほうがいい。
- △ 子ども達の実態を把握して (男子 語彙が少ない, 女子声が小さい) 授業を組み立てる  
ノートを学級便りで紹介してもいい。

(大友先生)

- 子ども達が成長している。(自分の考えがいえる)・・・P4Cの一番大切なこと
- △ ノートに書く時間を確保する。(発表はほかの時間 朝の会や帰りの会に設定してもいい)